

No.4

# 医療と在宅を結ぶリハビリテーション連携モデル事業 -“リハビリ難民”ゼロを目指したモバイルアプリケーション導入の実証研究-

1.9 億円程度  
(事業期間3年間)

医療現場で行っていたリハビリテーション内容をもとにして、退院後も個別化されたエクササイズが自宅で実施できるアプリケーションの導入効果を実証する。



### ○医療と在宅を結ぶ在宅セルフエクササイズモバイルアプリケーション導入の効果実証

- 医療保険の制度上、発症から一定期間経過後に「リハビリテーションを受けたくても受けられない人たち」が“リハビリ難民”と呼ばれ、問題視されている。さらに、一人暮らしが多い都心部では、在宅での運動機会の創出が望まれている。
- モバイルアプリケーションの開発により、医療現場から在宅へのシームレスな連携を実現。退院直後から個別化されたセルフエクササイズを、日本中どこでも自宅で自律的に実施できる環境を提供し、その効果を実証する。

### 事業実施による効果

“リハビリ難民”が減少し、発症初期からの運動機能向上を、退院後にも継続させることで、都民の健康寿命延伸および医療・介護保険などの社会保障費削減が実現。